

## デイサービスの形体からみる利用者の状態とその変化に関する分析

### ー富山型デイ・一般型デイ・認知症デイの比較を通してー

○ 日本福祉大学地域ケア研究推進センター 奥田佑子 (5550)

藤田欽也 (日本福祉大学福祉政策評価センター・8062)、斉藤雅茂 (日本福祉大学・5854)

キーワード3つ：介護保険給付分析・富山型デイ・要介護度変化

## 1. 研究目的

2015年の介護保険制度の見直しでは、急激に増える通所介護に対して新規参入の総量規制やより効果の高いデイサービス（以下、デイ）に対する評価などの見直しが検討された。特に、小規模通所介護はその単価の高さから報酬引き下げの検討対象となり、機能面から、①レスパイト、②機能訓練、③認知症対応、④ナーシングの4機能に整理し、基本報酬を下げることも検討されてきた。結果、通所介護については、報酬が引き下げられ、認知症や中重度者の受け入れに加算がついている。

富山型デイの多くは、小規模の通所介護であり、①レスパイトに該当することになる。しかし、認知症ケアや機能訓練などの特別なプログラムは用意されていなくても、認知症高齢者が多く利用し、家庭的なゆったりとした時間の流れや、多様な関係の中で自然に役割を見つけたりすることで、機能を維持する役割を果たしていると考えられる。また、デイに泊りや訪問を付加し多機能化することで、在宅生活の継続を支援している。しかし、そうした効果の検証はこれまで行われていない。そこで、本調査研究では、介護保険の給付データを用いて、富山型デイ利用者の状態像の特性や要介護度変化等を、他のデイ利用者と比較し、その特性と効果を検証することを試みた。

## 2. 研究の視点および方法

### <分析の対象データおよび対象者>

富山県内の3保険者から給付データの提供を受け分析を行った。分析の対象としたデータは2006年から2013年までの各10月の介護保険給付データ、8時点分である。介護保険給付データは、その月に利用のあった被保険者の生年月日・性別のほかに、利用した介護サービスの種類、事業者番号、利用金額、日数、加算の有無などから構成されている。

分析の対象者は2006～2013年の各年10月のいずれかに介護給付・予防給付の「通所介護」および「認知症対応型通所介護」を利用した者である。対象者は、全体で26,601人となっている。

### <分析の視点>

事業者番号から富山型デイと認知症対応型デイを特定するとともに、加算の状況から、一般型デイを機能訓練加算がある・なしで区分して分析を行う。利用サービスごとの対象者数は、表1の通りである。Vの「一般型+富山型」は対象者が少ないため、今回の分析からは除外した。

表1 利用類型ごとの対象者数

| 利用類型 |                | 人数      | 割合     |
|------|----------------|---------|--------|
| I    | 一般型デイ・機能訓練加算なし | 11,489人 | 43.2%  |
| II   | 一般型デイ・機能訓練加算あり | 11,177人 | 42.0%  |
| III  | 富山型デイ          | 2,606人  | 9.8%   |
| IV   | 認知症デイ          | 1,061人  | 4.0%   |
| V    | 一般型+富山型        | 268人    | 1.0%   |
| 総計   |                | 26,601人 | 100.0% |

そのうえで、1) 利用開始時の状態像、2) 継続利用の状況（継続した利用と在宅の維持）、3) 要介護度の変化（要介護度の重度化の状況）、の3点から富山型デイの利用の特性と有効性を検証することを試みた。

### 3. 倫理的配慮

住所・氏名等の個人情報情報は削除し、被保険者番号はマスキングをかけ、個人が特定できないよう加工したうえでデータの提供を受けている。結果は個別の保険者・事業所等が特定されないよう配慮している。

### 4. 研究結果

#### 1) 通所介護利用時の要介護度

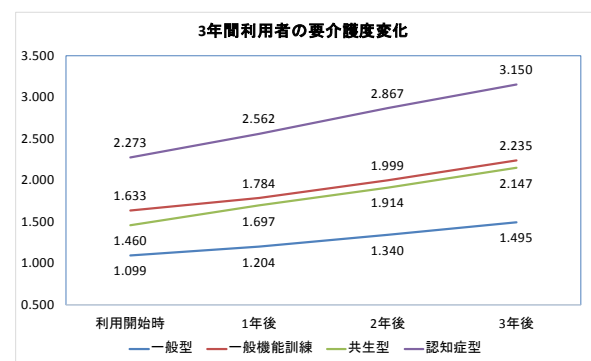
平均要介護度は「I：一般型加算なし」（1.37）→「III：富山型」（1.68）→「II：一般型加算あり」（1.84）→「認知症デイ」（2.35）の順番で重くなっている。タイプによって要介護度の構成は大きく異なる。

#### 2) 継続利用の状況

デイの利用から施設に移行している割合を確認したところ、一般型デイと富山型デイで移行の割合が低い結果となった。

#### 3) 要介護度の変化

3年間（3時点）利用している者について要介護度の変化をみると認知症デイで要介護度の重度化が進んでおり、富山型デイは一般型加算ありよりも、若干重度化が進んでいる傾向がみられた。（右図）



### 5. 考察

デイの形態によって、利用者の状態像がおおきく異なることが明らかとなった。その中でも富山型デイは、利用者が一般型デイ（加算なし）よりも重度の人が利用していること、にも関わらず在宅の継続率は一般型のデイと同等に高くなっていた。要介護度の重度化は一般型デイ・一般型デイ（加算あり）と同程度であり、認知症デイでは重度化が進む傾向がみられた。富山型デイは在宅の継続という点では、重度者も含めて支援が可能となっていることが明らかとなった。